

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)  
学生生活部学生生活計画課  
担当：井上・岩崎・堀崎  
電話 03-5520-6169  
FAX 03-5520-6047

## 「平成22年度学生生活調査」結果の概要

学生の標準的な生活状況を把握し、学生生活支援事業の改善を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成22年11月現在で、全国の大学学部、短期大学、大学院修士課程、博士課程及び専門職学位課程の学生を対象に実施した「平成22年度学生生活調査」の結果の概要である。

学生生活費（学費と生活費の合計）、学生の収入状況、家庭の年間平均収入額、アルバイト従事状況、奨学金の受給状況、通学時間、週間平均生活時間の項目について取りまとめている。

### ＜平成22年度調査結果の主な特徴＞

○学生生活費は、大学学部(昼間部)、大学院修士課程で平成12年度調査をピークに五期連続して減少している。

【学生生活費】	平成20年度		平成22年度
大学学部(昼間部)	1,859,300円	→	1,830,500円(▲1.5)
大学院修士課程	1,742,100円	→	1,732,100円(▲0.6)

○学生の収入総額は、大学学部(昼間部)、大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも前回調査(平成20年度)よりも減少している。

【収入総額】	平成20年度		平成22年度
大学学部(昼間部)	2,198,800円	→	1,988,500円(▲9.6)
大学院修士課程	2,106,100円	→	1,966,200円(▲6.6)

○収入総額に占める家庭からの給付額の割合は、大学学部(昼間部)、大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも前回調査(平成20年度)よりも減少している。

なお、大学学部(昼間部)、大学院修士課程、博士課程では、奨学金の占める割合が増加している。

【収入総額に占める割合】		平成20年度		平成22年度
大学学部(昼間部)	家庭からの給付	65.9%	→	61.7%(▲4.2)
	奨学金	15.3%	→	20.3%(▲5.0)

○家庭の年間平均収入は、大学学部(昼間部)、大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも前回調査(平成20年度)よりも減少している。特に、私立の減少が大きく、大学学部(昼間部)では、国立と私立の差が僅差となった。

【調査対象者2,980,279人から82,330人を抽出し調査を行った。有効回答数37,151人(回収率45.1%)】

(注)1.学生生活費は学費と生活費からなっている。

学費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計

生活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常費の合計

2.四捨五入した数を使用している表では、内訳の数の合計が、合計欄の数と一致しない場合がある。

3.大学院専門職学位課程については、平成18年度より調査対象とした。

4.平成14年度までは文部科学省が調査を実施した。

# 1 学生生活費（学費と生活費の合計）

○学生生活費は、大学学部（昼間部）および大学院修士課程では平成20年度調査に比べ減少しており、平成12年度調査をピークに5期連続しての減少となっている。大学院博士課程および専門職学位課程は、平成20年度調査に比べ増加している。

内訳をみると、大学学部（昼間部）、大学院修士課程では、学費・生活費ともに平成20年度調査に比べ減少している。大学院博士課程および専門職学位課程では、生活費が増加している。

**【大学学部（昼間部）】**

平成20年度調査より3万円減少の183万円となっている。

**【大学院修士課程】**

平成20年度調査より1万円減少の173万円となっている。

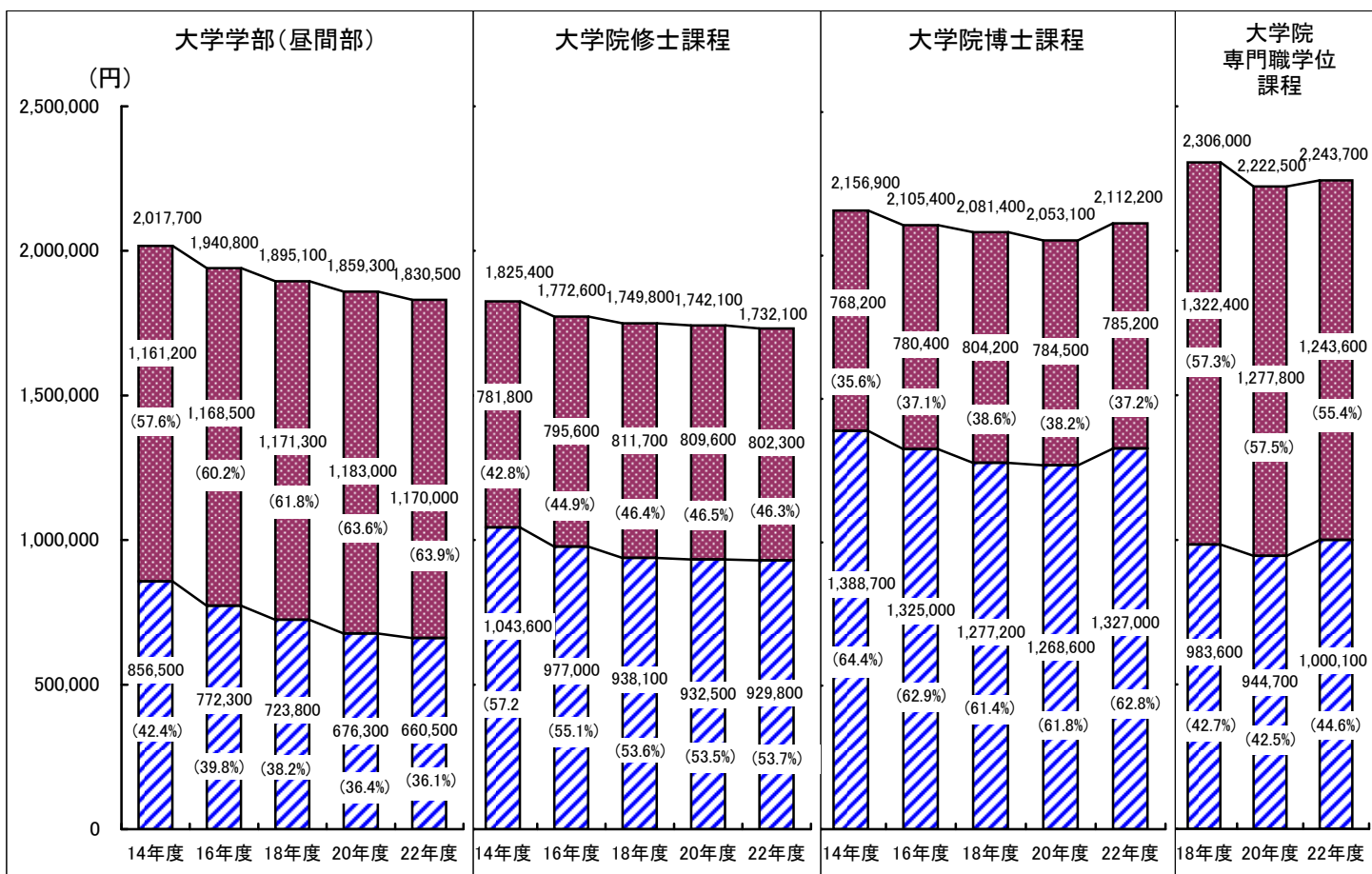
**【大学院博士課程】**

平成20年度調査より6万円増加の211万円となっている。

**【大学院専門職学位課程】**

平成20年度調査より2万円増加の224万円となっている。

■ 学費    ▨ 生活費



学生生活費の増減額及び伸び率の推移

区分		H12→H14		H14→H16		H16→H18		H18→H20		H20→H22	
大学学部	昼間部	学費	%	学費	%	学費	%	学費	%	学費	%
		生活費	▲80,300 (▲ 8.6)	▲84,200 (▲ 9.8)	▲48,500 (▲ 6.3)	▲47,500 (▲ 6.6)	▲13,000 (▲ 1.1)	▲15,800 (▲ 2.3)			
学生生活費		▲40,500 (▲ 2.0)	▲76,900 (▲ 3.8)	▲45,700 (▲ 2.4)	▲35,800 (▲ 1.9)	▲28,800 (▲ 1.5)					
大学院	修士課程	学費	29,700 ( 3.9)	13,800 ( 1.8)	16,100 ( 2.0)	▲2,100 (▲ 0.3)	▲7,300 (▲ 0.9)				
		生活費	▲102,300 (▲ 8.9)	▲66,600 (▲ 6.4)	▲38,900 (▲ 4.0)	▲5,600 (▲ 0.6)	▲2,700 (▲ 0.3)				
	学生生活費		▲72,600 (▲ 3.8)	▲52,800 (▲ 2.9)	▲22,800 (▲ 1.3)	▲7,700 (▲ 0.4)	▲10,000 (▲ 0.6)				
	博士課程	学費	27,300 ( 3.7)	12,200 ( 1.6)	23,800 ( 3.0)	▲19,700 (▲ 2.4)	700 ( 0.1)				
		生活費	▲118,400 (▲ 7.9)	▲63,700 (▲ 4.6)	▲47,800 (▲ 3.6)	▲8,600 (▲ 0.7)	58,400 ( 4.6)				
	学生生活費		▲91,100 (▲ 4.1)	▲51,500 (▲ 2.4)	▲24,000 (▲ 1.1)	▲28,300 (▲ 1.4)	59,100 ( 2.9)				
専門職	学費				▲44,600 (▲ 3.4)	▲34,200 (▲ 2.7)					
	生活費				▲38,900 (▲ 4.0)	55,400 ( 5.9)					
学生生活費					▲83,500 (▲ 3.6)	21,200 ( 1.0)					

\* ( )は、前回調査からの伸び率である。

## 2 設置者別の学生生活費

○学生生活費を設置者別に比較した場合、大学学部（昼間部）、大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも、私立が国立より高くなっている。

大学学部（昼間部）の内訳をみると、学費は授業料、その他の学校納付金の差等により私立が国立より66万円高くなっている。

生活費は食費、住居・光熱費の差等により逆に国立が私立より20万円高くなっているが、これは自宅以外の学生の割合が高いためと考えられる。

### 【大学学部(昼間部)】

国立が148万円、私立が194万円で、私立が国立より46万円高くなっている。内訳をみると、学費は私立が国立より66万円高く、生活費は国立が私立より20万円高くなっている。

### 【大学院修士課程】

国立が163万円、私立が191万円で、私立が国立より28万円高くなっている。内訳をみると、学費は私立が国立より45万円高く、生活費は国立が私立より18万円高くなっている。

### 【大学院博士課程】

国立が205万円、私立が232万円で、私立が国立より28万円高くなっている。内訳をみると、学費は私立が国立より30万円高く、生活費は国立が私立より2万円高くなっている。

### 【大学院専門職学位課程】

国立が190万円、私立が244万円で、私立が国立より54万円高くなっている。内訳をみると、学費は私立が国立より57万円高く、生活費は国立が私立より3万円高くなっている。

(単位：円)

区分	学 費			生 活 費			合 計		
	授業料、 その他の 学校納付金	修学費、 課外活動費、 通学費	小 計	食費、 住居・光熱費	保健衛生費、 娯楽・嗜好費、 その他の日常費	小 計			
大学学部	国立	512,500	144,100	656,600	542,500	279,900	822,400	1,479,000	
	公立	533,500	140,800	674,300	460,100	271,700	731,800	1,406,100	
	私立	1,154,200	162,600	1,316,800	337,500	281,800	619,300	1,936,100	
	平均	1,011,600	158,400	1,170,000	379,500	281,000	660,500	1,830,500	
大学院	修士課程	国立	502,800	129,700	632,500	686,300	314,300	1,000,600	1,633,100
		公立	523,300	179,100	702,400	543,200	360,200	903,400	1,605,800
		私立	892,900	193,600	1,086,500	481,700	340,500	822,200	1,908,700
		平均	646,300	156,000	802,300	603,200	326,600	929,800	1,732,100
	博士課程	国立	450,700	259,000	709,700	854,900	480,600	1,335,500	2,045,200
		公立	479,400	299,600	779,000	695,600	567,900	1,263,500	2,042,500
		私立	672,700	335,200	1,007,900	771,900	543,000	1,314,900	2,322,800
		平均	505,800	279,400	785,200	826,800	500,200	1,327,000	2,112,200
専門職学位課程	国立	665,300	212,000	877,300	656,800	366,800	1,023,600	1,900,900	
	公立	553,500	199,500	753,000	517,400	311,300	828,700	1,581,700	
	私立	1,207,200	236,800	1,444,000	596,600	401,200	997,800	2,441,800	
	平均	1,015,900	227,700	1,243,600	612,700	387,400	1,000,100	2,243,700	

(参考) 居住形態別学生数の割合 (大学学部(昼間部))

(単位：%)

居住形態	自 宅	学寮、下宿、アパート、その他
国 立	33.2	66.8
公 立	40.3	59.7
私 立	61.1	38.9
平 均	55.2	44.8

### 3 居住形態別の学生生活費

○学生生活費を居住形態別に比較した場合、大学学部（昼間部）、大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者の学生生活費を大きく上回っている。

設置者別区分の学生生活費は私立の下宿等が最も高くなっている。

**【大学学部（昼間部）】**

下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者に比べ53万円高くなっており、設置者別にみると、国立の自宅を基準とした場合に、国立の下宿等は1.6倍、私立の自宅は1.6倍、私立の下宿等は2.2倍となっている。

**【大学院修士課程】**

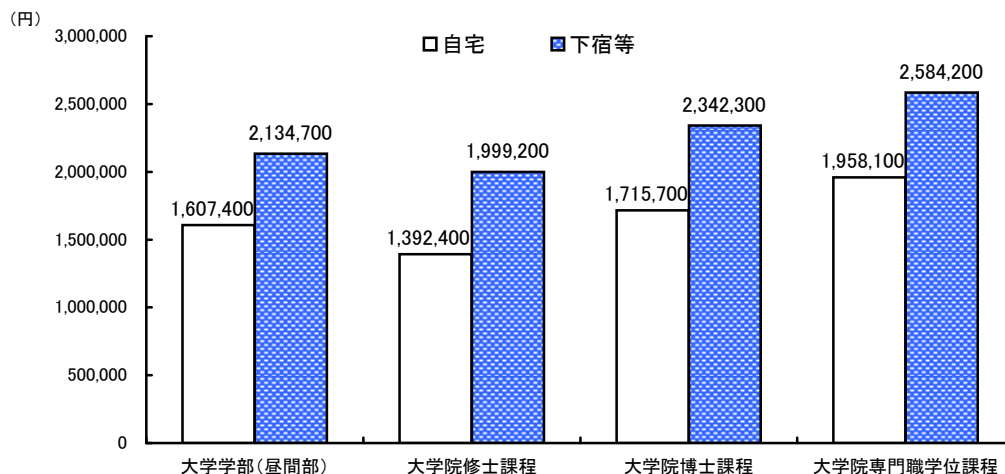
下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者に比べ61万円高くなっており、設置者別にみると、国立の自宅を基準とした場合に、国立の下宿等は1.6倍、私立の自宅は1.4倍、私立の下宿等は2.0倍となっている。

**【大学院博士課程】**

下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者に比べ63万円高くなっており、設置者別にみると、国立の自宅を基準とした場合に、国立の下宿等は1.4倍、私立の自宅は1.2倍、私立の下宿等は1.7倍となっている。

**【大学院専門職学位課程】**

下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者に比べ63万円高くなっており、設置者別にみると、国立の自宅を基準とした場合に、国立の下宿等は1.4倍、私立の自宅は1.4倍、私立の下宿等は1.9倍となっている。



(単位：円)

区 分			自 宅	下宿、アパート、その他
大学学部	昼間部	国立	1,085,600 (1.00)	1,709,800 (1.57)
		公立	1,083,500 (1.00)	1,641,000 (1.51)
		私立	1,692,700 (1.56)	2,363,200 (2.18)
		平均	1,607,400	2,134,700
大学院	修士課程	国立	1,158,000 (1.00)	1,865,200 (1.61)
		公立	1,265,800 (1.09)	1,944,800 (1.68)
		私立	1,600,500 (1.38)	2,353,000 (2.03)
		平均	1,392,400	1,999,200
	博士課程	国立	1,606,600 (1.00)	2,249,400 (1.40)
		公立	1,665,800 (1.04)	2,374,600 (1.48)
		私立	1,921,000 (1.20)	2,686,400 (1.67)
		平均	1,715,700	2,342,300
専門職課程	国立	1,529,200 (1.00)	2,184,500 (1.43)	
	公立	1,354,500 (0.89)	1,962,000 (1.28)	
	私立	2,127,400 (1.39)	2,875,600 (1.88)	
	平均	1,958,100	2,584,200	

\* ( ) は、国立の自宅を基準 (1.00) とした場合の指数である。

## 4 学生の収入状況

○学生の収入については、大学学部（昼間部）で199万円、大学院修士課程で197万円となっており、平成20年度調査と比較して減少している。

大学学部（昼間部）の収入構成をみると、平成20年度調査に比べ、収入総額に占める家庭からの給付額の割合が61.7%と4.2ポイント減少しているが、奨学金の占める割合は20.3%と5.0ポイント増加している。

### 【大学学部(昼間部)】

収入総額は平成20年度調査より21万円減少の199万円となっている。

### 【大学院修士課程】

収入総額は平成20年度調査より14万円減少の197万円となっている。

### 【大学院博士課程】

収入総額は平成20年度調査より23万円減少の268万円となっている。

### 【大学院専門職学位課程】

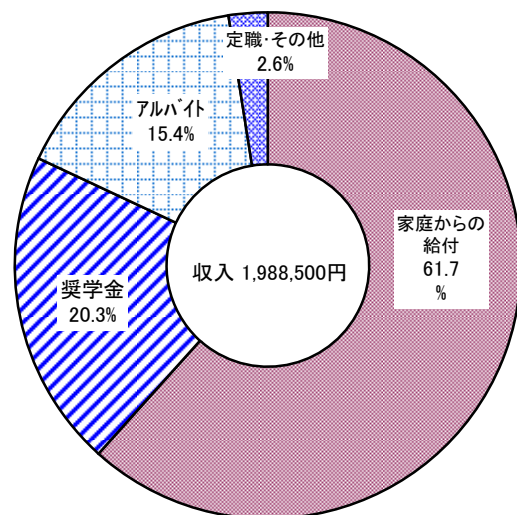
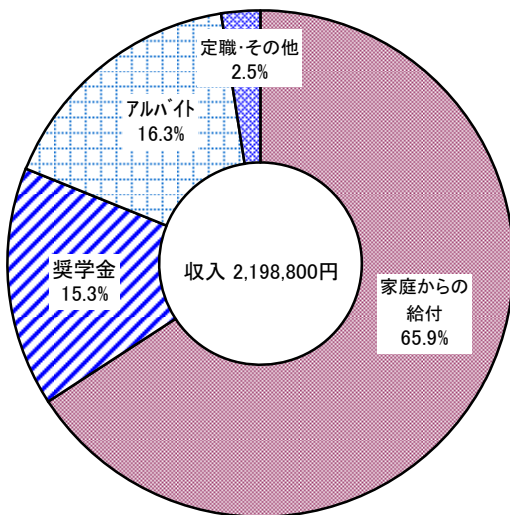
収入総額は平成20年度調査より19万円減少の259万円となっている。

※大学院の「アルバイト」は、「TA・RA」を含む。

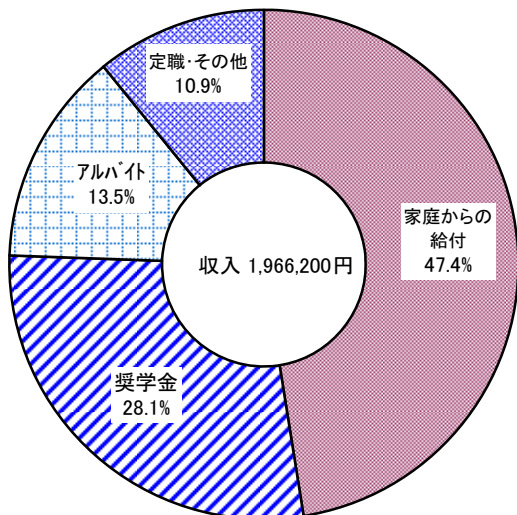
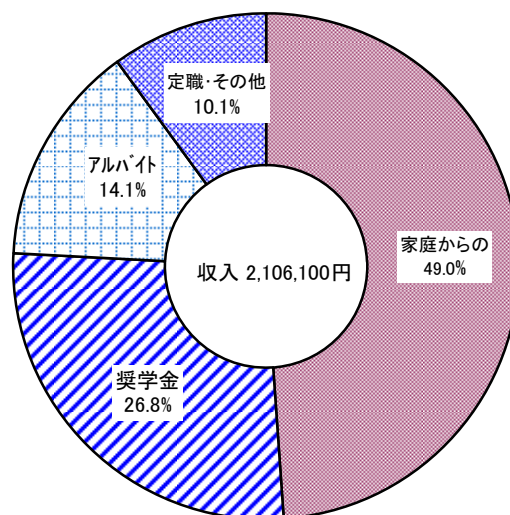
平成20年度

平成22年度

### 【大学学部(昼間部)】



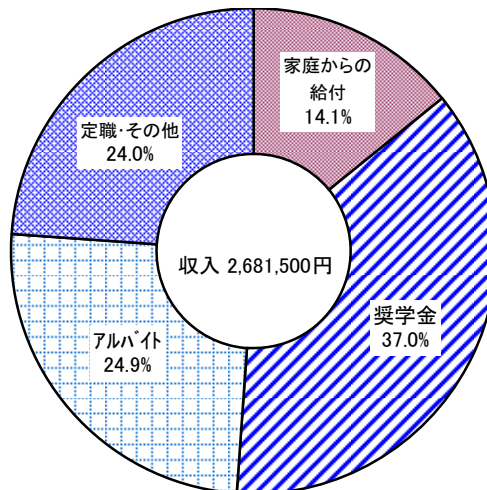
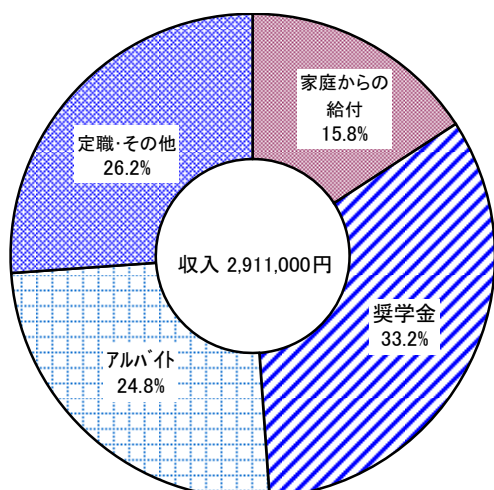
### 【大学院修士課程】



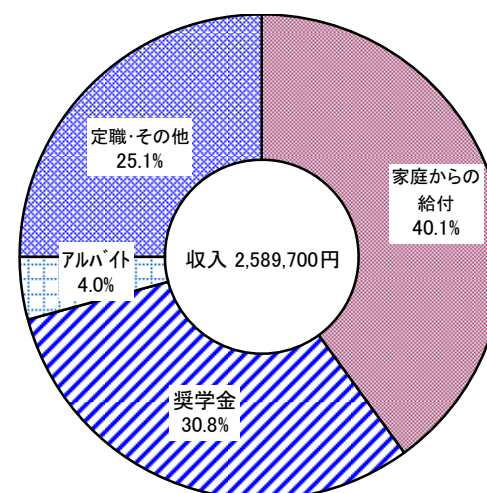
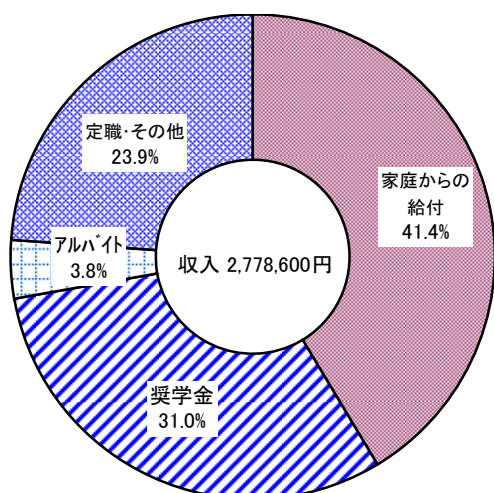
平成20年度

平成22年度

【大学院博士課程】



【大学院専門職学位課程】



(単位:円)

区分	家庭からの給付	奨学金	アルバイト	定職・その他	合計	
大学学部(昼間部)	20	(65.9) 1,449,400	(15.3) 336,700	(16.3) 358,300	(2.5) 54,400	(100.0) 2,198,800
	22	(61.7) 1,227,500	(20.3) 402,700	(15.4) 306,900	(2.6) 51,400	(100.0) 1,988,500
大学院修士課程	20	(49.0) 1,031,700	(26.8) 565,000	(14.1) 296,500	(10.1) 212,900	(100.0) 2,106,100
	22	(47.4) 932,100	(28.1) 552,500	(13.5) 266,400	(10.9) 215,200	(100.0) 1,966,200
大学院博士課程	20	(15.8) 459,000	(33.2) 966,400	(24.8) 722,500	(26.2) 763,100	(100.0) 2,911,000
	22	(14.1) 378,800	(37.0) 991,500	(24.9) 668,600	(24.0) 642,600	(100.0) 2,681,500
大学院専門職学位課程	20	(41.4) 1,149,200	(31.0) 860,200	(3.8) 106,400	(23.9) 662,800	(100.0) 2,778,600
	22	(40.1) 1,039,700	(30.8) 796,800	(4.0) 104,100	(25.1) 649,100	(100.0) 2,589,700

\* ( )は、合計に占める割合(単位:%)である。

収入の伸び率の推移

区分	H12→H14	H14→H16	H16→H18	H18→H20	H20→H22
大学学部(昼間部)	4.1%	▲1.7%	▲0.4%	0.4%	▲9.6
大学院修士課程	2.2%	▲2.2%	0.4%	1.5%	▲6.6
大学院博士課程	1.7%	▲0.3%	2.3%	2.8%	▲7.9
大学院専門職学位課程				▲2.5%	▲6.8



## 5 家庭の年間平均収入額

○学生の家庭の年間平均収入額を設置者別にみると、大学学部（昼間部）は私立が一番高いが、前回調査より減少しており、国立と僅差になっている。

### 【大学学部（昼間部）】

平成20年度調査より3.0%減少の7,970万円となっている。設置者別にみると私立が一番高く、8,010万円となっている。

### 【大学院修士課程】

平成20年度調査より1.9%減少の7,950万円となっている。設置者別にみると国立が一番高く、8,010万円となっている。

### 【大学院博士課程】

平成20年度調査より0.1%減少の7,450万円となっている。設置者別にみると私立が一番高く、8,140万円となっている。

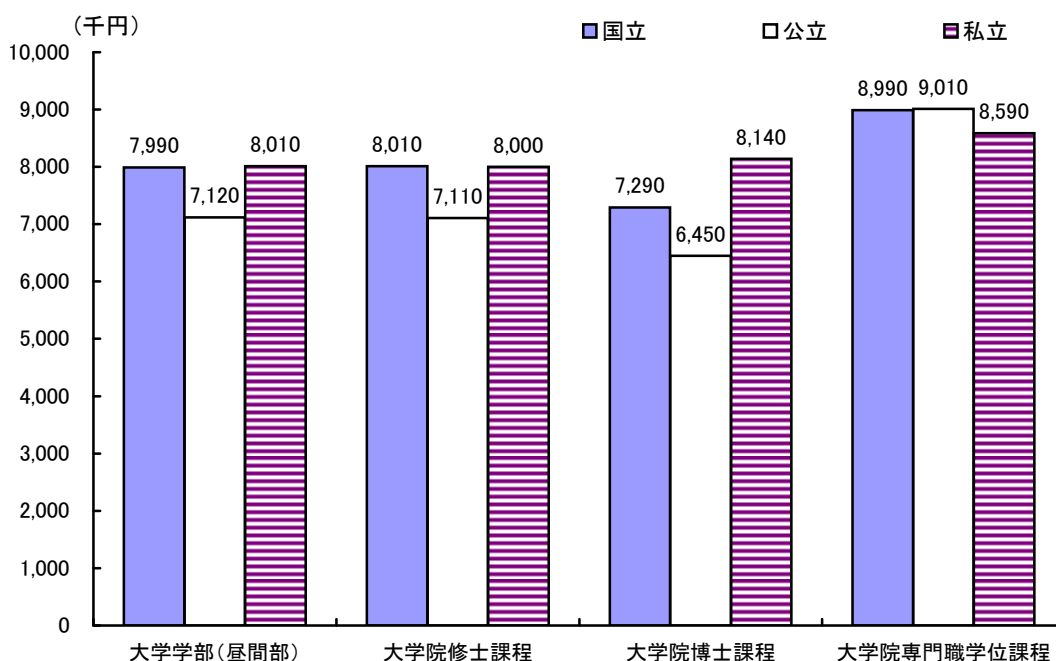
### 【大学院専門職学位課程】

平成20年度調査より0.5%減少の8,730万円となっている。設置者別にみると公立が一番高く、9,010万円となっている。

(単位：千円)

区分	大学学部 (昼間部)	大学院			
		修士課程	博士課程	専門職学位課程	
22年度	国立	(0.9) 7,990	(1.1) 8,010	(2.8) 7,290	(3.3) 8,990
	公立	(▲1.7) 7,120	(▲2.1) 7,110	(3.9) 6,450	(10.8) 9,010
	私立	(▲4.0) 8,010	(▲5.9) 8,000	(▲7.0) 8,140	(▲2.7) 8,590
	平均	(▲3.0) 7,970	(▲1.9) 7,950	(▲0.1) 7,450	(▲0.5) 8,730
20年度平均		(▲2.8) 8,220	(1.5) 8,100	(▲4.1) 7,460	(2.8) 8,770

\* ( )は、前回調査からの伸び率(単位：%)である。



## 6 アルバイト従事状況

○大学学部（昼間部）、大学院修士課程、博士課程では、平成20年度調査に比べ、アルバイト従事者の割合が減少している。内訳をみると、「家庭からの給付のみで修学可能」な者の割合が減少し、「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難」な者の割合が増加している。

### 【大学学部(昼間部)】

アルバイト従事者の割合は平成20年度調査より4.5ポイント減少の73.1%となっている。

### 【大学院修士課程】

アルバイト従事者の割合は平成20年度調査より2.4ポイント減少の78.1%となっている。

### 【大学院博士課程】

アルバイト従事者の割合は平成20年度調査より1.4ポイント減少の74.5%となっている。

### 【大学院専門職学位課程】

アルバイト従事者の割合は平成20年度調査より0.5ポイント増加の28.4%となっている。

(単位：%)

区 分				平成20年度	平成22年度
大学学部	昼間部	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	39.9	32.8
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	37.6	40.3
			計	77.6	73.1
	アルバイト非従事者			22.4	26.9
大学院	修士課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	31.0	27.5
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	49.6	50.6
			計	80.5	78.1
		アルバイト非従事者			19.5
	博士課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	11.2	9.3
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	64.8	65.2
			計	75.9	74.5
		アルバイト非従事者			24.1
	専門職学位課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	8.8	7.0
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	19.1	21.5
			計	27.9	28.4
		アルバイト非従事者			72.1

\* 1 「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難」とは、家庭からの給付がない者を含む。

\* 2 「大学院」は「TA・RA」従事者を含む。



## 7 奨学金の受給状況

○全学生のうち、日本学生支援機構や大学等の奨学金を受給している者の割合は、平成20年度調査に比べ、大学学部（昼間部）及び大学院修士課程、大学院博士課程で増加している。

【大学学部(昼間部)】

平成20年度調査より7.4ポイント増加し、50.7%となっている。

【大学院修士課程】

平成20年度調査より2.8ポイント増加し、59.5%となっている。

【大学院博士課程】

平成20年度調査より1.2ポイント増加し、65.5%となっている。

【大学院専門職学位課程】

平成20年度調査より2.7ポイント減少し、60.1%となっている。

(単位：%)

区 分	20年度	22年度
大学学部 (昼間部)	43.3	50.7
大学院修士課程	56.7	59.5
大学院博士課程	64.3	65.5
大学院 専門職学位課程	62.8	60.1

## 8 通学時間（片道）

○通学時間について居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、大学学部（昼間部）、大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程の全国平均はいずれも60分以上となっている。地域別にみると、東京圏、京阪神は、その他の地域に比べ通学時間が長めになっている。

通学時間は、前回調査と比べてほとんど変わりが無い。なお、大学学部（昼間部）の自宅通学者は55.2%、学寮は5.5%、下宿等は39.3%となっており、自宅通学者が前回調査よりも1.1%増加している。

### 【大学学部(昼間部)】

居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、片道69分となっている。

### 【大学院修士課程】

居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、片道67分となっている。

### 【大学院博士課程】

居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、片道68分となっている。

### 【大学院専門職学位課程】

居住形態別にみると、自宅通学者の通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、片道64分となっている。

(単位：分)

区分			自宅	学寮	下宿、アパート、その他	平均
大学学部	昼間部	東京圏	75.9	26.6	24.7	56.7
		京阪神	75.2	16.6	16.5	53.1
		その他	59.6	10.1	12.8	34.6
		全国	69.4	17.3	16.9	45.9
大学院	修士課程	東京圏	75.7	27.0	26.5	53.7
		京阪神	72.8	14.6	16.9	42.7
		その他	56.3	11.4	14.1	29.4
		全国	66.9	15.1	17.7	39.3
	博士課程	東京圏	73.4	32.1	31.2	53.4
		京阪神	70.4	13.7	23.5	44.1
		その他	61.9	9.9	21.9	36.5
		全国	67.9	14.9	24.7	43.2
	専門職学位課程	東京圏	67.1	15.6	34.8	54.0
		京阪神	69.4	8.6	19.4	45.5
		その他	53.3	11.0	14.6	34.6
		全国	64.2	11.5	24.3	46.3

\*「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

平成20年度調査

			自宅	学寮	下宿、アパート、その他	平均
大学学部	昼間部	東京圏	76.6	20.4	24.5	56.7
		京阪神	75.1	19.5	17.7	52.2
		その他	59.8	10.4	12.8	34.2
		全国	69.6	15.2	16.9	45.3

## 9 週間平均生活時間

### 【大学学部(昼間部)】

設問項目のうち、一週間の生活時間の中で最も多く費やすのは「大学の授業」となっている。平成20年度調査よりも時間が増えているものが多く、「大学の授業以外の学習」は平成20年度調査よりも2.79時間増加している。

設置者別にみると、国公立のいずれも「大学の授業」が最も多く、その時間は平均で19.4時間となっている。

(単位：時間)

区分		大学の授業	大学の授業の 予習・復習	大学の授業 以外の学習	文化・体育等の 部・サークル活 動	アルバイトなど の 就労活動	娯楽・交友(*2)
22年度	国立	19.89	8.26	8.04	5.61	8.35	17.88
	公立	20.80	7.60	6.77	4.59	9.14	17.56
	私立	19.13	6.29	5.02	5.98	10.12	16.66
	平均	19.35	6.70	5.63	5.85	9.76	16.92
20年度	平均	18.73	6.23	2.84	5.42	10.04	

\*1 平成22年11月における不特定な一週間を調査した。

\*2 平成22年度調査より、調査項目に「娯楽・交友」を追加した。